

---

# Sクラスのイケメン - 羨望と劣等感の間

真黒くろすけ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Sクラスのイケメン - 羨望と劣等感の間

### 【Nコード】

N8259W

### 【作者名】

真黒くろすけ

### 【あらすじ】

Sクラスのイケメンにならないと死ぬ、、Cクラスイケメンになつた僕の壮絶な戦いの幕開け！

## 1 イケメン

僕は一命を取り留めた。鏡を見ると、Cクラスのイケメンになっていた。

イケメンのことなんてなんにも知らなかった。なにしろ僕はどこにでもいるフツメンで、毒にも薬にもならないような男だったからだ。

しかし僕はひょんなことからイケメンの仲間入りを果たした。そしてそれが壮絶な戦いの始まりだとは、夢にも思わなかった。

事の発端はこうだ。高校生になった僕はお洒落に興味をもった。それは至極当然なことであり、女の子にもてるために清潔感が欠かせないことは聞き及んでいた。

とはいえセンスのある方ではない僕はお洒落の仕方がわからない。そこでとにかくお洒落な服屋に行けばいいと単純に考えた。

初めての原宿にはとても緊張した。何しろ周りには地元にはいないような奇抜な格好をした同い年くらいの若者や、びっくりするくらいきれいなお姉さんなどがいるのだ。

僕はひどく場違いな気がした。とにかくうつろうつろしているよりは店に入らなくてはならない。僕はあせっていた。

周りを見渡すと、どうやら僕にも入れそうな敷居の低い感じの服屋を見つけた。あれしかない、僕はとっさに駆け出した。それがいけなかった。

店まであと5メートルというところで、僕は周りが見えなくなっていたのだろう、横から来ていたお兄さんに激突してしまった。

瞬間、僕の体はものすごい勢いで吹っ飛んだ。

宙を舞いながら、僕はそのお兄さんのすごいイケメンなのを見た。そして直感した。

これは死ぬ。

## 2イケメン

ここはどこだろう。

確か僕は原宿でイケメンのお兄さんにぶつかって……。

あたり一面はお花畑だった。そうかここはあの世への入り口か。  
僕は、死んでしまったのか。

たけし……

え？誰？

私だよたけし……

お、おじいちゃん？

そうだよたけし……。お前が死んでしまったと聞いてとても悲しんでいる……。私はお前の将来をとて楽しみにしていた……。でもお前は死んでしまった……。

……ごめんおじいちゃん。

謝ることはない……。お前にちょっとイケメン度数が足りなかっただけ……。私がお前にイケメンを遺伝させてやれなかったのがいけなかったのだ……。

おじいちゃんはイケメンだったらしいね。

私はSクラスのイケメンだった……。しかしそれゆえにおこつてしまっていた……。私は人を見下した……。私は自分の過去を悔いている……。だからお前には立派な人になってもらいたい……。

でももう無理だよ。僕もそっちへ行くよ。

ふふふ……。案じることはない……。私はSクラスのイケメンだ……。運命の女神を籠絡することくらいたやすいことなのだ……。お前にチャンスを与えるように頼んだ……。

それは、どういうこと？

生き返るのだけしよ……。お前がいつか心までSクラスのイケメンとなって人のためになることを私は願っている……。達者でなたけし……。

え！おじいちゃん！！

目を覚ますと病院のベッドの上だった。

### 3 イケメン

夢を見ていたのか。僕はさっきまでのおじいちゃんとのやりとりをうつろに思いだしていた。

しかし顔を洗おうと洗面台に向かった時、自分の顔が変わっていることにびっくりした。それはたしかに僕の顔ではあるのだが、今までと違い、どこかシャープで、整った顔立ち、に見えた。

おじいちゃんの仕業なのだろうか……。

僕はしばらくのあいだ半ば茫然として鏡に見入り、その新しい顔を眺めていた。

「あら、ずいぶんとナルシストなのね？」

びっくりして向き直ると看護師さんだった。

「よかったわあんまり大事なかったみたいで。でもまだ無理しちゃだめよ」

僕は素直にベッドに戻った。看護師さんはいがいしく僕の身の回りのことを世話してくれたのだが、僕はどこかひっかかった。なにかが、違った。

あるいは思い込みかもしれない。しかし退院後、人が自分を見る目になにか違和感を覚えた。たかが顔が変わっただけで世界が一変するとまでは思わないが、前までの自分とは明らかに何かが違った。

それにしてもまさかイケメンにぶつかっただけで死にかけるなん

て思いもよらなかった。僕は今まで彼らのことをしらなすぎた。

学校でも容姿に恵まれた連中はけっこういる。しかしその誰とも僕はたいして付き合いがなかった。というのも僕がありきたりな男で、これといった才覚に秀でているわけでもないし、社交性が低いことも自覚していた。

その僕がいつのまにかセンスのいい連中の仲間入りを果たしている。これだけでも僕にとっては革命的な変化だった。あのときから僕はほんとに変わったんだということが、驚くほどよくわかった。

いつしか僕は周りの友達に影響されて、話上手になっていた。自信がつくだけでこんなにも人は変わるものなのか。

「たけし！今日カラオケいこーぜ」

古臭い言い方かもしれないけど、僕の毎日が輝きだした。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8259w/>

---

Sクラスのイケメン - 羨望と劣等感の間

2011年10月9日15時25分発行